

水稻新品種「だて正夢」について

遠藤貴司, 永野邦明, 佐々木都彦¹⁾, 千葉文弥²⁾, 我妻謙介³⁾, 早坂浩志⁴⁾,
佐伯研一⁵⁾, 佐藤浩子, 酒井球絵¹⁾, 中込佑介

New Rice Cultivar “Datemasayume”

Takashi ENDO, Kuniaki NAGANO, Kunihiro SASAKI¹⁾, Bunya CHIBA²⁾, Kensuke WAGATSUMA³⁾,
Hiroshi HAYASAKA⁴⁾, Kenichi SAEKI⁵⁾, Hiroko SATO, Marie SAKAI¹⁾, Yusuke NAKAGOMI

抄 録

「だて正夢」は、「東北 189 号」(のちの「げんきまる」)を母、北海道の「おぼろづき」由来の低アミロース遺伝子 *Wx1-1* を保有する中生の「東 1126」を父として交配し、その後代より育成した良食味の中生水稲粳品種である。宮城県では、中生に属し、稈長は「ひとめぼれ」とほぼ同じで、稈長はやや長く、穂数は少なく、草型は中間型、耐冷性が“強”、いもち病真性抵抗性遺伝子型は *Pib* と推定され、いもち病ほ場抵抗性は、葉いもち、穂いもちともに“不明”である。「ひとめぼれ」と比べて、収量性は並から劣り、玄米品質は優れ、玄米の大きさは小さく、千粒重は約 20g と軽い。耐倒伏性は“やや強”、穂発芽性は“やや難”、ふ先色は“白”である。精白米のアミロース含有率は約 10%で、食味は粘りが強く良好で、冷めても食味の低下が少ない。栽培適地は、東北中部以南である。

キーワード: 水稻, 良食味, 低アミロース, *Wx1-1*, 新品種, だて正夢

Key words: Paddy rice, good eating quality, low amylose, *Wx1-1*, new cultivar, Datemasayume

緒 言

水稻の良食味品種の開発が進み、2018 年に予定されている生産調整廃止の動きと相まって、全国各県で独自に育成した良食味品種をブランド化する動きが活発化している。現在、宮城県では「ひとめぼれ」や「ササニシキ」が作付けの 85%以上を占めているが、品種誕生から「ササニシキ」(1963 年育成)が 50 年、「ひとめぼれ」(1991 年育成)が 20 年以上経過しており、これらの品種を補完し、みやぎ米の美味しさを新たに発信できる良食味の新品種が望まれていた。

宮城県では、「ひとめぼれ」に優る良食味品種として「たきたて」(永野ら 2005)や「ゆきむすび」(永野ら 2008)の低アミロース品種が育成され、普及している。「たきたて」は中生品種で、「農林 8 号」の突然変異系統 74wx2N1 由来の低アミロース遺伝子を保有しているが(東ら 1999)、登熟期間の高温によりアミロース含有率が低くなり、玄米が白濁し、炊飯米の粘りやもち臭が強くなるため、品質、食味の変動が大きかった。

「ゆきむすび」は、「たきたて」と同じ低アミロース遺伝子を有しており、登熟期間の温度によるアミロース含有率の変動は大きい。早生品種であるため、宮城県では山間地向きの品種として普及しており、平坦部で栽培するより、アミロース含有率は高めで変動する。

一方、「だて正夢」は、2003 年に北海道農業研究センターで育成された「おぼろづき」(安東ら 2006)に由来する低アミロース性遺伝子 *Wx1-1* (Ando et al. 2010) を有し、炊飯米の食味は、軟らかく、粘りが強い特長を持つ。*Wx1-1* は、登熟期間の気温によりアミロース含有率が変動するものの、「たきたて」の低アミロース性遺伝子とは異なり、玄米の白濁程度が弱く、炊飯米のもち臭は少ない。加えて、「だて正夢」は、耐倒伏性や玄米品質が「ひとめぼれ」に優ることから、安定した食味、品質を確保できる。2012 年から 2015 年にかけて奨励品種決定調査により、宮城県内での適応性を確認し、食味の良さや耐冷性や耐倒伏性等の栽

培特性が評価されたことから、2016年2月に宮城県で奨励品種に採用された。本報では、本品種の育成経過と特性の概要について報告する。なお、本報告の各形質の階級は、2015年4月の稲審査基準に拠る。

本品種を育成するにあたり、当場の関係各位、特性検定試験及び系統適応性検定試験の実施にあたり、関係農業試験場の担当者に多大なご尽力、ご協力を頂いた。これらの方々に感謝の意を表する。本品種の育成は、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（委託事業）の支援を得て実施した（2014～2015年）。

育種目標および育成経過

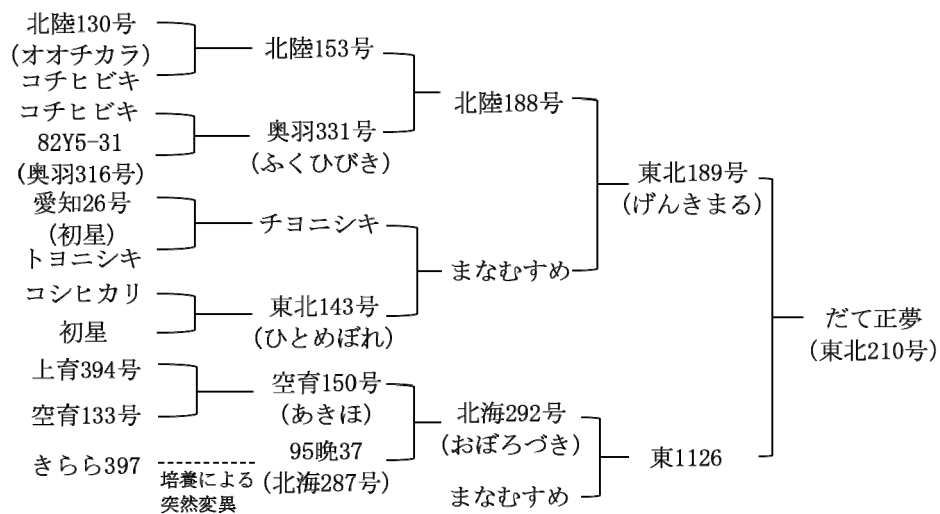
1. 育種目標

「だて正夢」は、中生の良質、多収、極良食味品種を目標とした。

2. 育成経過

宮城県古川農業試験場において、「東北189号」（のちの「げんきまる」）を母、「東1126」を父として、2006年8月に人工交配を行い、その後代から育成した系統である。系譜を第1図に示す。

2006年10月にF₁を温室で養成し、翌年にF₂～F₃を沖縄県農業試験場八重山支所（現沖縄県農業研究センター石垣支所）において世代促進栽培し、2008年本田においてF₄雑種集団を栽培して個体選抜を行い、2009年以降、系統栽培して選抜固定を図ってきた。2010年F₆世代で「10P-321」の試験番号を付して生産力予備検定試験に供試した。2011年F₇世代から「東1424」の試験番号を付して生産力検定試験、系統適応性検定試験ならびに特性検定試験に供試した結果、有望と認められたので、2012年度から「東北210号」の系統名で関係各県における地域適応性を検討してきた。2016年度はF₁₂である。2017年1月に品種登録の出願を行ない、同年4月に出願公表された。なお、育成経過と育成系統は、第1表、第2図、世代別の配付箇所数は、第2表のとおりである。



第1図 系譜

第1表 育成経過

項目	2006		2007		2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
	交配	F ₁	F ₂	F ₃	F ₄	F ₅	F ₆	F ₇	F ₈	F ₉	F ₁₀	F ₁₁
栽植系統群数							4	2	2	2	2	2
栽植系統数 (個体数)	(33) ^{注1)}	(21) ^{注2)}	(1731)	(2500)	(2000)	43	12	6	6	10	10	10
系統内個体数						30	60	60	60	60	60	60
選抜系統数					43	4	2	2	2	2	2	2

注1) 結実粒数

注2) 雑種第一代の養成個体数

(年次)	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
(世代)	F ₅	F ₆	F ₇	F ₈	F ₉	F ₁₀	F ₁₁
	1432	1	①→	1	1	1	①
	:	②→	2	2	2	2	2
	1465→	3	3	③→	③→	3	3
	:				4	4	4
	1478				5	⑤→	5
	10P-321 東1424 東北210号			新品種候補			

第2図 「だて正夢」の育成系統

丸で囲まれた数字は、選抜した系統番号を表す。

第2表 世代別配付箇所数

項目	年次と世代			
	2012 F ₈	2013 F ₉	2014 F ₁₀	2015 F ₁₁
系統適応性検定試験			1	1
特性検定試験	2	3	1	11
奨励品種決定調査	5	5	1	5

特性の概要

1. 一般特性

1) 形態的特性

形態的特性を第3, 4表, 第1付表に示す。移植時の苗の草丈は「ひとめぼれ」と同程度かやや長く、葉色はほぼ同じである。成熟期における稈長は「ひとめぼれ」や「げんきまる」とほぼ同じで、穂長は「ひとめぼれ」よりやや長く、穂数は少なく「げんきまる」並で、草型は“中間型”である。稈の太さは、「ひとめぼれ」より太く、「げんきまる」並の“中”，稈の剛柔は“やや剛”で、耐倒伏性は「げんきまる」より劣り、「ひとめぼれ」に優る”やや

強”である。粒着は「ひとめぼれ」より密で、「げんきまる」並の“中”，やや短めの芒を中程度生じ、芒は「ひとめぼれ」に比べて少ない。ふ先色は“白”，穎色は“黄白”である。脱粒性は“難”である。

2) 出穂期・成熟期

出穂期, 成熟期は, ともに「ひとめぼれ」と同程度であり, 育成地では, “中生”である(第4表, 第1付表)。

第3表 一般特性(2015年)

品種名	苗丈	苗葉色	稈		芒		ふ先色	粒密着度	脱粒性
			細太	剛柔	多少	長短			
だて正夢	中～やや長	中	中	やや剛	中	やや短	白	中	難
ひとめぼれ	中	中	やや細	やや柔	やや多	やや短	白	やや疎	難
げんきまる	やや長	中	中	やや剛	中	中	白	中	難

第4表 生育調査

品種名	施肥	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	結実 日数 (日)	倒伏 程度 (0-4)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)
だて正夢	標肥	8.04	9.15	42	0.3	80.9	18.6	372
ひとめぼれ		8.04	9.13	41	0.9	80.3	17.8	464
げんきまる		8.05	9.17	43	0.1	79.8	19.0	340
だて正夢	多肥	8.04	9.18	45	0.3	81.9	19.7	376
ひとめぼれ		8.03	9.19	47	1.4	81.3	19.2	528
げんきまる		8.06	9.19	45	0.3	81.2	20.5	368

注1) 2010～2015年の6年平均。倒伏程度は、0(無)～4(甚)を示す。

注2) 施肥量(N, P, K成分kg/a)は、標肥(基:0.4, 0.6, 0.5), 多肥(基:0.4, 0.6, 0.5

追:0.3, 0.0, 0.3)。追肥は、最高分げつ期～減数分裂期にかけて3回に分けて施用。

注3) 栽植密度は、22.2株/m², 1株4本植。

第5表 いもち病菌系別抵抗性 (2011年)

系統名 または 品種名	稲86 (003.0)	稲86 (007.0)	24-22 (037.1)	推定 抵抗性 遺伝子型
だて正夢	R	R	R	<i>Pib</i>
新2号	S	S	S	+
愛知旭	S	S	S	<i>Pia</i>
石狩白毛	R	S	S	<i>Pii</i>
関東51号	R	R	S	<i>Pik</i>
BL1	R	R	R	<i>Pib</i>

注) 噴霧接種による判定。Sは罹病性反応, Rは抵抗性反応。

2. 耐病性

1) いもち病抵抗性

(1) 真性抵抗性

いもち病真性抵抗性遺伝子型は、4葉期の苗に対して3菌系のいもち病菌を噴霧接種して判定した。その結果、系譜上の品種の遺伝子型について、「おぼろづき」が*Pii*, *Pik*, 「まなむすめ」が*Pii*, 「げんきまる」が*Pib*であることも考慮して、いもち病真性抵抗性遺伝子型は、*Pib*と推定された(第5表)。

(2) ほ場抵抗性

葉いもちほ場抵抗性は、育成地と依頼先の青森県産業技術センター農林総合研究所(青森県)において畑晩播法により検定した(第6, 7表)。その結果、両試験地ともに自然発病条件下では、*Pib*を侵すレースが優占していないために、発病程度は小さく、葉いもちほ場抵抗性は“不明”と判定された。そのため、育成地では、2015年に*Pib*を侵害する007.2レースをほ場条件下で人工的に噴霧接種して、*Pib*を保有する他の品種と比較して、ほ場抵抗性を評価した。その結果、「まなむすめ」に*Pib*を導入した同

質遺伝子系統である「東北 IL21 号」や「ササニシキ」に *Pib* を導入した同質遺伝子系統である「東北 IL9 号」、酒造用米や飼料用米として東北地方を中心に普及している多収品種「ふくひびき」よりも発病程度が小さく、「だて正夢」のほ場抵抗性は、比較的強いものと推定された。しかし、現時点で *Pib* を保有する品種の基準品種が存在しないことや、単年度の評価であることを考慮して、本データは参考データとして扱い、評価は“不明”のままとした(第6表)。

穂いもちほ場抵抗性は、育成地と依頼先の秋田県農業試験場(秋田農試)、東北農業研究センター(東北農研)、福島農業総合センター浜地域研究所(福島浜)、愛知県農業総合試験場山間農業研究所(愛知山間)において行った(第8, 9表)。それらの結果、穂いもちほ場抵抗性についても、全試験地において罹病率が少なく、“極強”や“かなり強”と判定されたが、自然発病下では *Pib* を侵すレースが優占していないためと考えられるため、穂いもちほ場抵抗性も葉いもちほ場抵抗性と同様に“不明”と判定した。

第6表 葉いもちほ場抵抗性

系統名 または 品種名	推定 抵抗性 遺伝子型	発病程度(0~10)					判定
		2012	2013	2014	2015	平均	
だて正夢	<i>Pib</i>	1.3	1.3	0.1	2.3	1.3	不明
ヒメノモチ	<i>Pik</i>	3.3	1.4	1.7	2.3	2.2	(強)
マンゲツモチ	<i>Pik</i>	6.4	4.8	5.1	3.9	5.1	(中)
東北IL3号	<i>Pia, Pik</i>	6.8	5.7	4.8	4.4	5.4	(やや弱)
ふ系69号	<i>Pik</i>	6.9	6.3	4.8	4.7	5.7	(やや弱)
だて正夢	<i>Pib</i>				2.3		-
ふくひびき	<i>Pib</i>				4.3		(やや強)
東北IL21号	<i>Pib</i>				3.0		(中)
東北IL9号	<i>Pib</i>				5.5		(やや弱)

注1) 畑晩播法による自然発病下での検定。ただし、2015年下段は、畑晩播法によるほ場条件下での007.2レースの人工噴霧接種による検定。発病程度は、0(無)~10(全茎葉枯死)を示す。

注2) かつこ内は基準品種の評価(ただし、2015年下段は、育成地による暫定の判定基準)。

第7表 葉いもちほ場抵抗性(青森県, 2015年)

系統名 または 品種名	推定 抵抗性 遺伝子型	発病程度(0~10)	判定
だて正夢	<i>Pib</i>	1.2	不明
ヒメノモチ	<i>Pik</i>	8.1	(強)
サカキモチ	<i>Pik</i>	8.3	(中)
ふ系69号	<i>Pik</i>	9.6	(やや弱)

注1) 畑晩播法による検定。発病程度は、0(無)~10(全茎葉枯死)を示す。

注2) かつこ内は基準品種の評価。

第8表 穂いもちほ場抵抗性(育成地, 宮城県栗原市現地ほ場)

系統名 または 品種名	推定 抵抗性 遺伝子型	2011		2012		2013	
		出穂期 (月日)	罹病率 (%)	出穂期 (月日)	罹病率 (%)	出穂期 (月日)	罹病率 (%)
だて正夢	<i>Pib</i>	8.17	15.0	8.22	10.0	8.28	25.0
岩南6号	<i>Pia, Pii</i>	8.16	12.5	8.20	15.0	8.26	20.0
まなむすめ	<i>Pii</i>	8.16	27.5	8.21	22.5	8.26	32.5
ひとめぼれ	<i>Pii</i>	8.16	47.5	8.22	35.0	8.28	52.5
奥羽321号	<i>Pik</i>	8.15	12.5	8.20	20.0	8.29	10.0
雪化粧	<i>Pik</i>	8.15	17.5	8.19	22.5	8.23	87.5
び系91号	<i>Pik</i>	8.19	17.5	8.22	40.0	8.25	82.5
でわのもち	<i>Pik</i>	8.18	7.5	8.21	22.5	8.25	77.5

系統名 または 品種名	推定 抵抗性 遺伝子型	2014		2015		平均	判定
		出穂期 (月日)	罹病率 (%)	出穂期 (月日)	罹病率 (%)	罹病率 (%)	
だて正夢	<i>Pib</i>	8.21	2.5	8.17	3.3	11.2	不明
岩南6号	<i>Pia, Pii</i>	8.18	31.3	8.16	20.0	19.8	(かなり強)
まなむすめ	<i>Pii</i>	8.18	50.0	8.16	52.5	37.0	(強)
東北IL2号	<i>Pia, Pii</i>	8.16	65.0	8.15	52.5	64.0	(弱)
奥羽321号	<i>Pik</i>	8.20	6.3	8.16	7.0	11.2	(強)
雪化粧	<i>Pik</i>	8.18	13.8	8.16	9.3	30.1	(やや強)
東北IL3号	<i>Pia, Pik</i>	8.18	13.0	8.14	18.8	34.4	(やや弱)
でわのもち	<i>Pik</i>	8.22	13.0	8.17	14.3	27.0	(弱)

注1) 晩期栽培における検定。037レース接種苗移植による発病促進。

注2) かつこ内は基準品種の評価。

第9表 穂いもちほ場抵抗性(依頼先, 2015年)

系統名 または 品種名	秋田農試 ^{注1)}			東北農研(秋田) ^{注1, 2)}			福島浜 ^{注1, 2, 3)}			愛知山間 ^{注1)}		
	出穂期 (月日)	罹病率 (%)	判定	出穂期 (月日)	発病程度 (0~10)	判定	出穂期 (月日)	発病程度 (0~10)	判定	出穂期 (月日)	罹病率 (%)	判定
だて正夢	8.07	0.2	保留	8.07	0.5	かなり強	8.12	0.5	極強	8.13	0.9	極強
岩南6号	8.03	3.4	(極強)									
奥羽357号	8.03	2.1	(極強)	8.07	1.8	(かなり強)						
トロキヤ	8.04	4.2	(強)							8.09	2.5	やや強
まなむすめ	8.04	4.1	(強)	8.07	1.8	(強)						
ひとめぼれ	8.05	6.1	(中)	8.08	2.0	(中)				8.12	3.0	やや弱
はえぬき	8.07	6.5	(中)									
東北IL2号	8.05	8.2	(弱)									
キヨニシキ				8.03	2.3	(中)	-	2.0	(中)			
ササニシキ				8.07	2.3	(弱)	-	2.8	(弱)			
サチズミ										8.06	1.8	強

注1) 秋田農試: 秋田県農業試験場

東北農研: (国研) 農研機構 東北農業研究センター大仙研究拠点

福島浜: 福島県農業総合センター浜地域研究所

愛知山間: 愛知県農業総合試験場山間農業研究所

注2) 東北農研と福島浜の発病程度は, 0(罹病率無)~10(全粒罹病)で示す. かつこ内は基準品種の評価.

注3) 福島浜は, A群(+, Pia) 中晩生(ひとめぼれ級)の基準品種による判定.

第10表 白葉枯病抵抗性

系統名 または 品種名	発病程度 (1~9)					判定
	2012	2013	2014	2015	平均	
だて正夢	5.3	6.4	4.7	5.3	5.4	弱
中新120号	1.5	2.3	1.2	2.2	1.8	(強)
庄内8号	3.0	5.0	1.9	5.0	3.7	(やや強)
コシヒカリ	4.2	4.0	3.0	2.8	3.5	(中)
ササニシキ	4.7	4.4	2.4	3.5	3.8	(やや弱)

注1) かつこ内は基準品種の評価.

注2) 出穂前にII群菌(T-7147)を剪葉接種, 発病程度は1(無病斑)~9(止葉枯死).

第11表 白葉枯病抵抗性(山形県農業総合研究センター水田農試)

系統名 または 品種名	2012		2013		2015		平均 病斑長 (cm)
	病斑長 (cm)	判定	病斑長 (cm)	判定	病斑長 (cm)	判定	
だて正夢	10.3	やや弱	9.0	中	6.0	中	8.4
中新120号	5.5	(強)	3.3	(強)	1.9	(強)	3.6
庄内8号	8.3	(やや強)	-	-	2.5	(やや強)	5.4
フジミノ	6.6	(中)	8.2	(中)	5.8	(中)	6.9
ササニシキ	9.3	(やや弱)	8.4	(やや弱)	-	-	8.9
ヒメノモチ	16.2	(弱)	16.8	(弱)	18.2	(弱)	17.1

注1) 依頼先: 山形県農業総合研究センター水田農業試験場

注2) かつこ内は基準品種の評価. 総合判定は育成地の評価.

注3) 山形庄内: 出穂前にII群菌(MAFF311019)とIII群菌(MAFF311020)を剪葉接種し, 24~27日後に剪葉部分からの病斑長の長さを測定した.

2) 白葉枯病抵抗性

白葉枯病抵抗性は、育成地及び依頼先の山形県農業総合研究センター水田農業試験場（山形庄内）にて、剪葉接種法により検定した。その結果、育成地では、「ササニシキ」より弱い“弱”，山形庄内では、「フジミノリ」から「ササニシキ」並の“やや弱～中”と判定された（第10, 11表）。総合的に，“弱”と判定した。

3) 縞葉枯病抵抗性

依頼先の岐阜県農業技術センター（岐阜農技セ），近畿中国四国農業研究センター（現西日本農業研究センター）（近中四農セ）における抵抗性検定の結果、縞葉枯病には“罹病性”である（第12表）。

第12表 縞葉枯病抵抗性（依頼先）

系 統 名 ま た は 品 種 名	岐阜農技セ ^{注1)}			近中四農セ ^{注2)}	総合 ^{注3)}
	発病株率 (%)			発病指数比	判定
	2013	2015	平均	2015	
だて正夢	17.8	4.3	11.1	56.2	罹病性
あさひの夢	0.0	0.0	0.0		(抵抗性)
ハツシモ	45.9	7.0	26.5		(罹病性)
日本晴	14.7	4.3	9.5	82.2	(罹病性)
杜稻				100.0	(罹病性)
農林8号				68.1	(罹病性)
StNo. 1				1.7	(抵抗性)
陸稲農林11号				0.0	(抵抗性)

注1) 岐阜県農業技術センターによる検定。

常発地での発病。出穂期に目視で発病株率を確認。

注2) 近畿中国四国農業研究センター（現西日本農業研究センター）による検定。

罹病性の基準品種「杜稻」の発病指数を100とした発病指数比で検定。

注3) 総合判定は育成地による判定。かっこ内は、基準品種の評価。

第13表 耐冷性

品 種 名	2010		2011		2012		2013	
	出穂期 (月日)	不稔歩合 (%)	出穂期 (月日)	不稔歩合 (%)	出穂期 (月日)	不稔歩合 (%)	出穂期 (月日)	不稔歩合 (%)
だて正夢	8.23	30.0	8.16	20.0	8.21	30.0	8.13	20.0
ひとめぼれ	8.23	30.0	8.16	25.0	8.20	22.5	8.13	10.0
オオトリ	8.19	70.0	8.13	55.0	8.19	62.5	8.08	45.0

品 種 名	2014		2015		平均	判定
	出穂期 (月日)	不稔歩合 (%)	出穂期 (月日)	不稔歩合 (%)	不稔歩合 (%)	
だて正夢	8.09	20.0	8.09	27.5	24.6	強
ひとめぼれ	8.10	15.0	8.11	22.5	20.8	(強)
オオトリ	8.06	50.0	8.06	60.0	57.1	(やや強)

注) 水深25cm，水温19℃の水を循環灌漑する恒温深水法による検定。

かっこ内は基準品種の評価。

第14表 耐冷性 (岩手県農業研究センター)

品 種 名	2012		2013		2015		平均 稔実歩合 (%)	総合 判定
	出穂期 (月日)	稔実歩合 (%)	出穂期 (月日)	稔実歩合 (%)	出穂期 (月日)	稔実歩合 (%)		
だて正夢	8.23	70.2	8.16	71.9	8.11	81.2	74.4	強
ひとめぼれ	8.18	63.9	8.11	63.6	8.09	84.5	70.7	(強)
はえぬき	8.18	73.2	-	-	8.09	83.0	78.1	(強)
オオトリ	8.16	37.0	8.08	46.0	8.07	53.0	45.3	(やや強)
おきにいり	8.18	27.2	8.10	44.1	8.06	59.2	43.5	(やや強)
コガネヒカリ	8.17	22.9	8.10	34.0	8.08	40.7	32.5	(中)
アキホマレ	8.15	18.7	-	-	8.07	37.3	28.0	(やや弱)
トヨニシキ	8.16	11.3	8.05	31.7	8.08	29.1	24.0	(弱)

注1) 恒温深水法による検定(設定水温19℃). 稔実率は触手による計測.

2012年の処理期間, 水深は, 7/5~7/18: 水深20cm, 7/19~8/27: 水深30cmとした.

2013年の処理期間, 水深は, 7/11~7/16: 水深20cm, 7/17~8/24: 水深30cmとした.

2015年の処理期間, 水深は, 7/2~7/11: 水深20cm, 7/11~8/27: 水深30cmとした.

注2) 総合判定は育成地による. かつこ内は基準品種の判定基準.

第15表 高温登熟耐性 (2015年)

品 種 名	出穂期 (月日)	機器評価		達観評価					判定
		整粒率 (%)	白未熟粒率 (%)	発生程度(0-9)					
				腹白	心白	乳白	背白	基白	
だて正夢	8.10	6.1	83.7	判定不能 ^{注3)}					不明
ふさおとめ	8.08	60.2	24.0	2.0	1.5	1.8	1.0	1.0	(強)
里のうた	8.08	72.4	16.9	1.8	1.5	1.5	1.3	1.3	(やや強)
あきたこま	8.10	59.9	27.6	1.5	1.5	1.8	1.0	1.8	(中)
初星	8.12	35.7	47.6	1.8	1.8	2.8	1.8	2.3	(弱)
みねはるか	8.11	48.9	28.8	1.3	1.5	2.0	1.0	1.8	(やや強)
ひとめぼれ	8.10	40.5	49.4	1.3	1.5	3.0	1.5	1.5	(中)
ササニシキ	8.13	19.9	58.2	2.0	2.0	3.5	1.0	1.8	(弱)

注1) ガラス室による検定

処理期間: 最初の材料の出穂始め~最後の材料の出穂後25日まで.

処理温度: 目標温度28℃とし, 換気と暖房で調節.

6月上旬播種, 中旬移植. 総合判定は, 穀粒判別器(サタケRGQI10型)による

白未熟粒率(乳白, 基白, 腹白, 白死米の合計が全粒に占める割合)と

達観による腹白, 心白, 乳白, 背白, 基白の発生程度(0~9)による評価.

注2) かつこ内は東北地域高温耐性連絡試験(2011~2013)により決定された基準品種.

注3) 目視による達観評価は, 玄米の白濁により判定不能であった.

第16表 高温登熟耐性（鹿児島県農業開発総合センター，2015年）

品 種 名	出穂期	指数 ^{注2)}	判定 ^{注3)}
	(月日)		
だて正夢	7.31	0.0	強 ^{注4)}
越路早生	7.28	2.0	(強)
ふさおとめ	7.17	0.0	(強)
なつのだより	7.16	0.0	(強)
ハナエチゼン	7.23	4.0	(やや強)
コシヒカリ	7.24	3.0	(中)
ひとめぼれ	7.28	5.0	(中)
あきたこまち	7.22	6.0	(中)
はえぬき	7.28	8.0	(やや弱)
ミネアサヒ	7.30	14.0	(やや弱)
初星	7.24	8.0	(弱)

注1) 圃場における検定．4/27播種，5/18移植．

注2) 指数：玄米の背白粒の発生程度×2と基白粒の発生程度の合計値．

注3) かっこ内は基準品種の判定基準．

注4) 白濁した状態での判定．

3. 耐冷性

育成地と依頼先の岩手県農業研究センターにおける耐冷性検定の結果を第13, 14表に示す．これらの結果から，耐冷性は、「ひとめぼれ」と同じ“強”と判定された．

4. 高温登熟耐性

高温登熟耐性は，育成地ではガラス温室による検定，依頼先の鹿児島県農業開発総合センターでは，ほ場条件下による検定を実施した（第15, 16表）．その結果，育成地では，機器評価で整粒率が低く，白未熟粒率が高く，達観評価では白濁のため判定不能であった．鹿児島県農業開発総合センターでは，白濁した上での背白粒と基白粒を評価した結果，“強”と判定された．総合的に，高温登熟耐性検定は，白濁を生じてしまうため，判定は不能であった．

5. 穂発芽耐性

育成地における5ヶ年の検定結果により，穂発芽性は“やや難”と判定された（第17表）．

6. 収量性と玄米品質

玄米重は標肥では「ひとめぼれ」並で，多肥では，「ひとめぼれ」より劣った．玄米千粒重は約20gと「ひとめぼれ」や「げんきまる」より明らかに軽い．玄米品質は，光沢が良好で，乳白等の白未熟粒の発生が少ないため，総合評価で「ひとめぼれ」や「げんきまる」に優る（第18表）．

第17表 穂発芽耐性

品 種 名	発芽粒歩合 (%)					平均	判定 ^{注2)}	判定 ^{注3)}
	2011	2012	2013	2014	2015			
だて正夢	21.5	73.8	2.5	50.0	47.5	39.1	やや難	やや難
ひとめぼれ	2.5	7.5	6.3	42.5	37.5	19.3	(難)	-
蔵の華	45.0	45.0	8.3	57.5	28.8	36.9	(やや難)	-
たきたて	26.3	75.0	18.3	62.5	43.8	45.2	(中)	-
ササニシキ	40.0	65.0	32.0	50.0	45.0	46.4	(やや易)	(やや易)
イナバワセ	2.5	10.0	19.5	32.5	45.0	21.9	-	(極難)
トドロキワセ	7.5	30.0	10.3	47.5	45.0	28.1	-	(難)
レイメイ	45.0	25.0	11.3	67.5	55.0	40.8	-	(やや難)
ササミノリ	37.5	50.0	33.8	60.0	60.0	48.3	-	(中)
トヨニシキ	30.5	65.0	32.5	90.0	50.0	53.6	-	(やや易)
キヨニシキ	65.0	95.0	51.3	85.0	55.0	70.3	-	(易)

注1)成熟期の穂を冷蔵後、20℃で発芽させ、達観で発芽粒歩合を0～100%で調査した。

注2)かっこ内は、2015年1月稲審査基準による基準品種の評価。

注3)かっこ内は、農業研究センター研究資料 第30号(1995年10月)に基づく基準品種の評価。

第18表 収量及び玄米品質

品 種 名	施肥 ^{注1)}	注2)		同左標 玄 米 ^{注2)}	玄米品質 ^{注3)}								
		全 重 (kg/a)	玄米重 (kg/a)		準対比 (%)	千粒重 (g)	腹白	背白	基白	心白	乳白	光沢	総合1
だて正夢	標肥	153	55.7	99	20.2	1.0	1.1	1.1	0.8	0.8	1.8	1.8	3.0
ひとめぼれ		146	56.0	100	22.4	1.2	1.4	1.6	0.8	1.9	2.1	2.7	4.6
げんきまる		152	58.5	105	23.5	1.3	1.0	0.8	1.3	1.4	1.7	2.1	3.5
だて正夢	多肥	152	56.6	92	20.3	0.9	1.0	1.0	0.8	1.0	2.3	1.8	3.1
ひとめぼれ		157	61.3	100	22.4	1.1	1.3	1.4	0.8	1.6	2.1	2.5	4.2
げんきまる		160	64.2	105	23.6	1.3	0.9	0.8	1.4	1.2	1.7	1.9	3.0

注1)施肥量(N, P, K成分kg/a)は、標肥(基:0.4, 0.6, 0.5)、多肥(基:0.4, 0.6, 0.5 追:0.3, 0.0, 0.3)。

追肥は、最高分けつ期～減数分裂期にかけて3回に分けて施用。

注2)標肥区的全重・玄米重は2011年～2015年の5年平均(2010年は降雹被害のため除外)。玄米千粒重は2010年～2015年の6年平均。

多肥区は、2012年～2015年の4年平均。

注3)標肥区の玄米品質の総合1は、良(1)～不良(5)の5段階評価の2010～2014年の5年平均。総合2は、良(1)～不良(9)の9段階評価の2010～2015年の6年平均。

光沢は良(1)～不良(5)の5段階評価(2011～2014)と良(1)～不良(9)の9段階評価(2015)の5年平均。

腹白～乳白は良(1)～不良(5)の5段階評価(2011～2014)と無(0)～甚(9)の10段階評価(2015)の5年平均。2011年は背白、腹白は欠測。

多肥区の玄米品質の総合1は、良(1)～不良(5)の5段階評価の2012～2014年の3年平均。総合2は、良(1)～不良(9)の9段階評価(2015年)の2012～2015年の4年平均。

光沢は良(1)～不良(5)の5段階評価(2012～2014)と良(1)～不良(9)の10段階評価(2015)の4年平均。

腹白～乳白は良(1)～不良(5)の5段階評価(2012～2014)と無(0)～甚(9)の10段階評価(2015)の2012年～2014年の4年平均。

7. 穂相と稈質

育成地において穂相と稈質を調査した結果を第19、20表に示す。「だて正夢」の穂軸の抽出度は「ひとめぼれ」より小さく、一穂粒数は「ひとめぼれ」より多く、「げんきまる」並で、粒着密度は「ひとめぼれ」より密である。二次枝梗数は「ひとめぼれ」より多く、標肥の二次枝梗粒数割合は「ひとめぼれ」並で、多肥で「ひとめぼれ」より多くなった。

稈基部の太さは「ひとめぼれ」より太く、「げんきまる」並で、稈挫折荷重は第3節間、第4節間と

もに「ひとめぼれ」より高く、「げんきまる」並である。下位節間である第4と5節間長は「ひとめぼれ」より短く、「げんきまる」並か短い。

8. 押し倒し抵抗性

依頼先の東北農業研究センターにおいて、押し倒し抵抗性を評価した(第21表)。その結果、1穂あたりの抵抗値が耐倒伏性に優れる「ふくひびき」や「げんきまる」、「べこあおぼ」並に高かった。

第19表 穂相

品 種 名	試験区	穂軸の 抽出度 (cm)	穂長 (cm)	一穂 粒数 (粒)	穂長1cm 当り粒数 (粒)	枝梗数		枝梗別粒数割合(%)	
						一次	二次	一次	二次
だて正夢	標肥	7.8	17.8	83.1	5.6	9.1	10.9	62.9	37.1
ひとめぼれ		9.0	16.7	67.7	4.9	7.7	9.2	62.2	37.8
げんきまる		7.7	18.1	80.4	5.2	8.4	12.1	57.0	43.0
だて正夢	多肥	8.8	18.2	83.4	5.3	8.4	13.3	53.5	46.5
ひとめぼれ		9.9	18.0	68.8	4.5	8.0	8.9	62.2	37.8
げんきまる		10.6	19.2	84.3	5.1	7.9	13.9	51.2	48.8

注1) サンプルは2015年生産力検定試験圃場産。

注2) 稈長上位6本, 2株, 計12本の調査を行い, 最大最小値を除いた平均値。

注3) 施肥量(N, P, K成分kg/a)は, 標肥(基:0.4, 0.6, 0.5), 多肥(基:0.4, 0.6, 0.5 追:0.3, 0.0, 0.3)。

追肥は, 最高分げつ期～減数分裂期にかけて3回に分けて施用。

第20表 稈質

品 種 名	試験区	稈基径(mm)		稈基重 (g/10本)	稈挫折荷重(g)		節間長(cm)		
		第3節間	第4節間		第3節間	第4節間	第3節間	第4節間	第5節間
だて正夢	標肥	3.4	3.8	2.8	378	477	14.4	7.8	0.6
ひとめぼれ		2.8	3.2	2.3	261	381	13.9	9.4	1.1
げんきまる		3.3	3.7	3.1	352	450	12.4	10.8	1.2
だて正夢	多肥	3.4	3.8	3.2	306	373	14.0	6.9	0.6
ひとめぼれ		2.8	3.1	2.3	174	183	14.8	10.6	1.5
げんきまる		3.3	3.7	3.0	343	403	11.8	9.0	0.6

注1) サンプルは2015年生産力検定試験圃場産。

注2) 稈長上位6本, 2株, 計12本の調査を行い, 最大最小値を除いた平均値。

注3) 稈挫折荷重は茎稈挫折強度試験機E0-3型(佐藤製作所)により測定。

注4) 施肥量(N, P, K成分kg/a)は, 標肥(基:0.4, 0.6, 0.5), 多肥(基:0.4, 0.6, 0.5 追:0.3, 0.0, 0.3)。

追肥は, 最高分げつ期～減数分裂期にかけて3回に分けて施用。

第21表 押し倒し抵抗性(東北農業研究センター, 2014年)

品 種 名	出穂期 (月日)	平均 穂数 (本)	平均 抵抗値 (gf)	平均 1穂あたり抵抗値 (gf/本)
だて正夢	8.11	28.3	1,423	50
ふくひびき	8.08	24.5	1,223	50
ひとめぼれ	8.13	34.5	1,390	41
げんきまる	8.15	26.4	1,390	53
ササニシキ	8.11	29.8	1,014	34
夢あおば	8.13	20.5	1,460	71
べこあおば	8.13	26.5	1,286	49

注1) 播種方法: 湛水表面条播(手播き), 播種日: 5/15, 播種密度: 200粒/m²

注2) 湛水条件下で各試験区3~4地点の約10cm幅における穂数及び押し倒し抵抗値を測定(4反復)。

注3) 押し倒し抵抗値の測定には, デジタル・プッシュプルゲージ(アトー社)を使用。

9. 直播栽培

育成地と依頼先の岩手県農業研究センターにおける湛水直播栽培試験の結果を第22, 23表に示す。育成地では、苗立率は92.5%と高く、出穂期、成熟期は、「ひとめぼれ」や「げんきまる」並である。稈長、穂長は「ひとめぼれ」並であるが、穂数は「げんきまる」よりやや多く、「ひとめぼれ」より少ない。倒伏程度が低く、耐倒伏性は「ひとめぼれ」に優る。玄米重は「げんきまる」より低く、「ひとめぼれ」並

で、玄米品質は、「ひとめぼれ」に優る。玄米千粒重は、両品種より明らかに軽い。岩手県農業研究センターでは、2ヶ年とも「ひとめぼれ」より出穂期が3~4日、成熟期は5~8日遅く、2015年は成熟期に達せず、低収であった。穂数が少なく、玄米千粒重が軽く、倒伏程度が小さい点は、育成地と同様であった。

第22表 直播試験 (2012年)

品 種 名	苗立率 (%)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	結実 日数 (日)	倒伏 ^{注4)} 程度 (0-4)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	玄米品質 ^{注5)} (1~5)										
									全 重 (kg/a)	玄米重 (kg/a)	同左標 準対比 (%)	玄 米 千粒重 (g)	腹白	背白	基白	心白	乳白	光沢	総合
だて正夢	92.5	8.18	9.25	38	0.0	75.7	17.6	398	72.3	46.1	91	20.5	1.0	1.5	2.0	-	-	2.0	2.0
ひとめぼれ	88.1	8.17	9.24	38	1.5	74.1	17.5	435	66.9	46.0	91	22.5	1.8	3.0	2.0	1.0	1.5	2.5	2.8
げんきまる	89.4	8.18	9.26	39	0.0	74.1	17.9	345	74.6	50.6	100	23.9	1.5	1.5	1.3	1.8	1.5	1.5	1.8

注1) 播種方法: 湛水直播(シーダーテープ方式による表面播種)。播種日: 5月18日。

注2) 水管理: 播種後~出芽揃まで落水管理。

注3) 施肥量(N, P, K成分kg/a)は、基肥: 0.4, 0.6, 0.5, 追肥: なし。

注4) 倒伏程度は、0(無)~4(甚)を示す。

注5) 玄米品質(腹白, 背白, 基白, 心白, 乳白, 光沢, 総合)は良(1)~不良(5)の5段階評価。

第23表 系統適応性検定試験(直播)(岩手県農業研究センター)

品 種 名	年次	出穂期 (月日)	成熟期 ^{注2)} (月日)	苗立率 ^{注3)} (%)	倒伏 ^{注4)} 程度 (0-5)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	玄米重 (kg/a)	同左玄米 標準千粒 重 ^{注6)} (%)	玄米 品質 ^{注6)} (1-9)	検査 ^{注7)} 等級 (1-10)	いもち		
													葉	穂	
だて正夢	2014	8.16	10.13	48.8	0.0	91	17.9	479	50.3	103	20.4	4.0	4.0	無	無
ひとめぼれ		8.13	10.08	61.8	2.8	88	16.6	640	48.9	(100)	22.5	4.0	4.0	無	微
だて正夢	2015	8.17	(10.14)	52.8	0.0	77	19.2	340	33.4	66	20.4	3.0	2.0	無	無
ひとめぼれ		8.13	10.6	55.6	1.8	86	18.0	500	50.4	(100)	23.5	4.0	2.0	無	無

概評 2014年 有望度^{注8)}: △ 並取, 苗立ち並, 品質並, 耐倒伏性優。

2015年 有望度: × 「ひとめぼれ」と比べて、苗立ち並で耐倒伏性に優れるが、成熟期遅く、低収。

注1) 播種方法: 鉄コーティング湛水表面播種(鉄0.5倍重(乾粒重比))、

播種日: 2014年 5/8, 2015年 5/7, 播種量: 0.5kg/a, 施肥: 0.8Nkg/a

注2) 成熟期が()で記載されているものは、未達のため収穫日を記載。

注3) 苗立率は、播種30日後のm²当たり出芽数より算出。

注4) 倒伏程度は、6段階評価(0(無), 1(微)~4(多), 5(甚))。

注5) 玄米の篩目は、1.9mmを使用。水分は15%に調整した。

注6) 玄米品質は、上上(1)~下下(9)。

注7) 検査等級は、1等上(1)~3等下(9), 規格外(10)とした。農産物検査機関による鑑定。

注8) 有望度は、○(良), △, ×(不良)の3段階評価。

10. 玄米の形と粒厚別分布

「だて正夢」の玄米の長さは、「げんきまる」より短く、「ひとめぼれ」と同程度だが、幅は両品種に比べて狭く、厚さは同程度である。長さ／幅の比が両品種より大きく、玄米の形はやや細長い形状である（第24表、第3付図）。

玄米の粒厚分布は、標肥で2.0～2.1mmがモードとなり、「ひとめぼれ」や「げんきまる」と比較して2.0mm以上の占める割合が7～13%少なくなるが、1.9mm以上の占める割合は、93.6%となり、両品種とほぼ同程度である。多肥区では、モードが2.1mm以上2.2mm未満で両品種と同じで、1.9mm以上の占める割合も両品種と同じ約95%となった（第25表）。

第24表 玄米の形（2015年）

品 種 名	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	長さ／幅	長さ×幅
だて正夢	5.10	2.66	1.95	1.92	13.53
ひとめぼれ	5.09	2.90	2.00	1.76	14.72
げんきまる	5.14	2.94	1.97	1.75	15.11

注) サタケ穀粒判別器(RGQI10A)を用いて、粒厚1.7mm以上の生産力検定試験の玄米（2015年産、標肥区）2,000粒を測定。

第25表 玄米の粒厚別分布（重量割合%）（2015年）

品 種 名	試験区 ^{注1)}	1.7mm	1.8mm	1.9mm	2.0mm	2.1mm	2.2mm	1.9mm	2.0mm	
		～	～ 1.7	～ 1.8	～ 1.9	～ 2.0	～ 2.1	～ 2.2mm	以上	以上
だて正夢		0.7	0.8	4.9	17.5	<u>43.5</u>	31.5	1.1	93.6	76.1
ひとめぼれ	標肥	0.4	0.4	2.3	7.7	26.4	<u>55.8</u>	7.0	96.8	89.2
げんきまる		0.5	0.7	3.6	11.8	35.2	<u>44.5</u>	3.7	95.2	83.4
だて正夢		0.6	0.8	3.8	14.2	38.8	<u>39.7</u>	2.2	94.9	80.7
ひとめぼれ	多肥	1.0	0.8	3.8	9.5	28.8	<u>51.2</u>	5.0	94.5	85.0
げんきまる		0.4	0.6	2.4	8.1	26.7	<u>53.4</u>	8.3	96.6	88.5

注1) 施肥量(N, P, K成分kg/a)は、標肥(基:0.4, 0.6, 0.5)、多肥(基:0.4, 0.6, 0.5 追:0.3, 0.0, 0.3)。

注2) 1.7mmでふるった玄米200gを5分間縦目段ふるい、2反復の平均。

注3) アンダーラインは最頻値（モード）を示す。

1.1. 搗精

適搗精時間は、白度が高く、胚芽残存歩合や碎米率が少ない時間として推定した。本試験では、白度が40以上、胚芽残存率と碎米率が12%以下を適搗精歩合とした。その結果、「だて正夢」の搗精時間は「げんきまる」よりやや長く、「ひとめぼれ」と同程度である(第26表)。適搗精時間での精米の胚芽残存歩合と碎米歩合は「ひとめぼれ」や「げんきまる」より少ない(第27表)。

第26表 適搗精時間の推定(2015年)

品 種 名	玄 米 水 分 (%)	搗精時間(秒)						
		130	135	140	145	150	155	
だて正夢	13.3	搗精歩合(%)	92.9	91.3	90.2	89.3	-	89.0
		胚芽残存歩合(%)	-	17.0	12.0	8.0	-	-
		碎米歩合(%)	-	8.7	11.2	14.4	-	-
		白度	-	40.9	41.9	42.1	-	-
ひとめぼれ	13.7	搗精歩合(%)	92.9	91.6	90.5	90.0	89.5	-
		胚芽残存歩合(%)	-	23.0	12.0	11.0	-	-
		碎米歩合(%)	-	8.6	11.1	12.7	-	-
		白度	-	39.5	40.6	41.6	-	-
げんきまる	13.8	搗精歩合(%)	92.5	91.3	90.7	89.6	89.5	-
		胚芽残存歩合(%)	-	7.0	10.0	6.0	-	-
		碎米歩合(%)	-	10.9	12.9	18.8	-	-
		白度	-	40.6	41.2	41.2	-	-

注1) 2015年産標肥区の1.7mm以上の玄米330gをサタケ・マジックミルにより搗精した。反復なし。

注2) 胚芽残存歩合は100粒、碎米歩合は白米10gを調査した。反復なし。

注3) 白度はKett白度計(C-300)を使用した。3反復。

注4) 枠内は適搗精歩合を示す。

第27表 適搗精時間による搗精歩合

品 種 名	玄 米 水 分 (%)	搗 精 時 間 (秒)	搗 精 歩 合 (%)				胚芽残 存歩合 (%)	碎米 歩合 (%)	白 度
			1	2	3	平均			
だて正夢	13.3	140	89.9	89.9	90.0	90.0	14.7	11.5	42.4
ひとめぼれ	13.7	140	90.4	90.7	90.7	90.6	15.7	12.8	41.3
げんきまる	13.8	135	91.4	91.4	91.5	91.4	16.0	13.6	41.2

注1) 2015年産標肥区の1.7mm以上の玄米330gをサタケ・マジックミルにより搗精した。3反復。

注2) 胚芽残存歩合は100粒、碎米歩合は白米10gを調査した。3反復。

注3) 白度はKett白度計(C-300)を使用した。3反復。

12. 食味

育成地と依頼先でおこなった食味官能試験結果を第28, 29表に示す。依頼先は、北海道農業研究センター（北農研）、青森県産業技術センター農林総合研究所藤坂稲作部（青森産技セ）、中央農業総合研究センター北陸研究センター（中央農研）、近畿中国四国農業研究センター（現西日本農業研究センター）（近中四農研）、鹿児島県農業開発総合センター（鹿児島農総セ）の5カ所である。育成地では、粘りや硬さが複数年で基準品種と有意差が認められ、「ひとめぼれ」と比べると、粘りが強く、軟らかく、「たきたて」と比べると、粘りは弱く、やや硬かった。年次によって、総合、外観、味は、年次によって基準品種と有意差が認められ、総合と味は、「ひとめぼれ」と「たきたて」に優り、香りは、もち臭が「たきたて」よりも少ないために、「たきたて」より優り、「ひとめぼれ」と同程度であった。依頼先では、北農研、青

森産技セ、中央農研の3カ所で基準品種と比べて、総合値が高かった。北農研では、つやが優り、粘りが強く、柔らかく、青森産技セでは、外観や味が優り、粘りが強く、中央農研では、有意差はなかったものの、つや、うま味、なめらかさが基準品種より優った。

育成地における冷飯とチルド米飯の食味官能試験の結果を第30, 31表に示す。炊飯後4時間の冷飯では、「ひとめぼれ」に比べて、味が優り、粘りが強く、総合は有意に上回った（第30表）。チルド米飯では、7～48時間後経過しても、香り、味、粘りが維持され、総合評価で基準品種の「ひとめぼれ」を上回った（第31表）。

第28表 食味官能試験

品 種 名	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ	加水量	基準品種(加水量)
								試食月日, 試食人数
だて正夢	1.00 **	—	—	0.44	1.25 **	-0.75 **	1.38	ひとめぼれ(1.51)
たきたて	1.23	—	—	0.45	2.00 **	-1.25 **	1.27	2010.12.13, 10名
だて正夢	0.77 *	0.23	0.08	0.35	0.50	-0.21	1.38	ひとめぼれ(1.48)
たきたて	-0.23	-0.35	-0.42	-0.38	1.42 **	-0.08	1.28	2011.11.24, 13名
だて正夢	0.54	0.67 **	-0.17	0.38	1.21 **	-0.79 **	1.40	ひとめぼれ(1.48)
たきたて	-0.25	0.54	-0.29	0.21	2.13 **	-1.13 **	1.24	2012.12.05, 12名
だて正夢	0.82 **	0.21	0.11	0.39 *	0.50 *	-0.39	1.38	ひとめぼれ(1.46)
たきたて	0.68	0.50 **	0.04	0.57 *	1.29 **	-0.64 *	1.32	2013.11.20, 14名
だて正夢	0.59	0.14	0.00	0.77 *	0.91 **	-0.80 **	1.36	ひとめぼれ(1.5)
たきたて	0.32	0.00	0.00	0.45	1.45 **	-1.05 **	1.26	2014.11.13, 11名
だて正夢	0.58	0.00	0.08	0.38	0.71	0.75	1.15	ひとめぼれ(1.52)
たきたて	0.58	0.13	-0.17	0.25	1.04	-0.17	1.25	2015.11.10, 12名
だて正夢 平均	0.66	0.25	0.02	0.45	0.77	-0.29		ひとめぼれ
たきたて 平均	0.22	0.16	-0.17	0.22	1.47	-0.61		

注1)加水量は、白米重量に対して「ひとめぼれ」は1.46～1.52倍量、「たきたて」は1.24～1.32倍量、「だて正夢」は、1.15～1.40倍量。

注2)基準品種に比べて、総合、外観、香り、味は、-5（かなり不良）～+5（かなり良）、粘りは-5（かなり弱い）～+5（かなり強い）、硬さは-3（かなり軟らかい）～+3（かなり硬い）で評価した。

注3)*, **は符号検定により、5, 1%水準で基準品種と有意差ありを示す。

第29表 食味官能試験(依頼先)

試験地	品種名	総合	外観 ^{注1)}		香り	粘り	硬さ		味 ^{注3)}						
			つや	白さ			柔らかさ ^{注1)}	うま味	なめらかさ						
北農研 ^{注1)}	だて正夢	0.28	0.28	* 0.11		0.89	**	0.72	**	0.06					
青森産技セ ^{注2)}	だて正夢	0.57	**	0.43	0.14	0.50	*	-0.29		0.36	*				
中央農研 ^{注3)}	だて正夢	0.67	ns	0.83	ns	0.17	ns	1.17	ns	-0.17	ns	0.67	ns	1.17	ns
	コシヒカリ	1.00		1.50		0.17		1.17		-0.50		1.00		1.00	
近中四農研 ^{注4)}	だて正夢	-0.18	ns	0.06	ns	-0.24	**	0.65	**	0.88	**	-0.24	*		
鹿児島農総セ ^{注5)}	だて正夢	-0.11		0.11		0.00		0.33		-0.11		-0.33			

試験地	品種名	加水量	基準品種	試食年月日	試食人数
北農研	だて正夢	1.4	ななつぼし	2015.12.22	18
青森産技セ	だて正夢	1.2	まっしぐら	2016.1.6	14
中央農研	だて正夢	1.2	日本晴	2016.1.6	6
	コシヒカリ	1.4			
近中四農研	だて正夢	1.2	きぬむすめ	2016.1.7	17
鹿児島農総セ	だて正夢	1.2	ヒノヒカリ	2015.12.24	9

*, **は t検定の結果, 基準品種(中央農研は基準品種ではなく「コシヒカリ」との検定)と5%, 1%水準で有意, nsは有意差なしを示す。

注1) 北農研: 北海道農業研究センター

加水量は「だて正夢」(搗精歩合89.5%, 精米水分13.4%), 基準品種「ななつぼし」(移種・標肥: 搗精歩合89.9%, 精米水分13.6%)

ともに1.40倍で炊飯し, 各項目とも「ななつぼし」を基準(0)として, 大変悪い(-3)~大変良い(+3)の7段階で評価を行った。

ただし, 外観は, つや(-3~+3), 白さ(-3~+3)の2項目, 硬さは, 柔らかさ(-3~+3)として評価した。

注2) 青森産技セ: 青森県産業技術総合センター-藤坂稲作研究部

加水量は白米水分含量14.1%時に重量比1.38倍(「だて正夢」は1.20倍)となるように白米水分含量に応じて調整した。

総合, 外観, 香り, 味, 粘りは-3(基準よりかなり不良)~+3(基準よりかなり良)の7段階で評価した。硬さは-3(基準よりかなり柔らかい)

~+3(基準よりかなり硬い)の7段階で評価した。

注3) 中央農研: 中央農業研究センター-北陸研究センター

加水倍率は1.4, ただし, 「だて正夢」は1.2倍。基準品種は, 「日本晴」とした。

「総合」, 「外観」, 「香り」, 「粘り」は-5(粘らない)~+5(粘る), 「硬さ」は-5(硬い)~+5(軟らかい)で, 味は, 「うま味」, 「なめらかさ」として-5(悪)~+5(良)で評価した。

注4) 近中四農研: 近畿中国四国農業研究センター(現西日本農業研究センター)

「だて正夢」の搗精歩合は, 89.6, 精米白度41.5, 精米水分13.8%, 基準品種「きぬむすめ」の搗精歩合は, 89.4, 精米白度42.5, 精米水分12.5%。

加水量は白米水分含量に応じて乾物比1.55倍(白米水分含量13.0%時加水量1.35倍)となるよう調整した。

外観, 香り, 味, 粘り, 総合は+3(基準よりかなり良)~-3(基準よりかなり不良), 硬さは+3(基準よりかなり柔らかい)~-3(基準よりかなり硬い)で評価した。

注5) 鹿児島農総セ: 鹿児島県農業開発総合センター

「だて正夢」の搗精歩合88.6%, 「ヒノヒカリ」の搗精歩合88.5%。基準品種の加水量は1.35倍。

「外観」「香り」「味」「総合」は, +の方向に優り, -の方向に劣ることを示す。「粘り」は, +の方向に強い,

-の方向に弱いことを示す。「硬さ」は, +の方向に硬い, -の方向に軟らかいことを示す。各項目の評価範囲は-3~+3。

第30表 冷飯食味官能試験

品種名	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ	加水量	基準品種(加水量)			
								試食年月日・試食人数			
だて正夢	0.80	*	0.20	0.15	0.65	*	0.85	-0.15	1.25	ひとめぼれ(1.52)	
げんきまる	-0.55		-0.10	-0.05	-0.15		-0.30	*	-0.10	1.52	
たきたて	0.40		0.15	0.00	0.35		1.25	*	-0.40	1.25	2015.12.25, 10名

注1) 炊飯4時間後に試食。*は符号検定により5%水準で有意差ありを示す。

注2) 基準品種に比べて, 総合, 外観, 香り, 味は, -5(かなり不良)~+5(かなり良), 粘りは-5(かなり弱い)~+5(かなり強い), 硬さは-3(かなり軟らかい)~+3(かなり硬い)で評価した。

第31表 チルド米飯の食味官能試験

冷蔵・再加熱条件		食味結果						試食年月日, 試食人数
冷蔵時間 (時間)	500W 加熱時間 (秒)	総合 評価	外観	香り	味	粘り	硬さ	
0	0	0.38	-0.50	0.00	-0.13	0.50	-0.44	2016.7.11, 8名
7	100	0.50	0.07	0.00	0.14	0.79	0.50	2016.7.12, 7名
24	150	0.44	-0.17	0.06	0.22	0.94	-0.56	2016.7.14, 9名
48	150	0.60	-0.50	0.05	0.30	0.85	-0.20	2016.7.13, 10名

注1)「だて正夢」は、2015年産玄米(古川農業試験場産)を使用した。加水量は1.35倍。

基準品種は、「ひとめぼれ」で、加水量は1.5倍。

チルド米飯は、炊飯後、冷蔵し、電子レンジで再加熱して評価した。

注2)基準品種に比べて、総合、外観、香り、味は、-5(かなり不良)~+5(かなり良),粘りは-5(かなり弱い)~+5(かなり強い),硬さは-3(かなり軟らかい)~+3(かなり硬い)で評価した。

1.3. 吸水特性

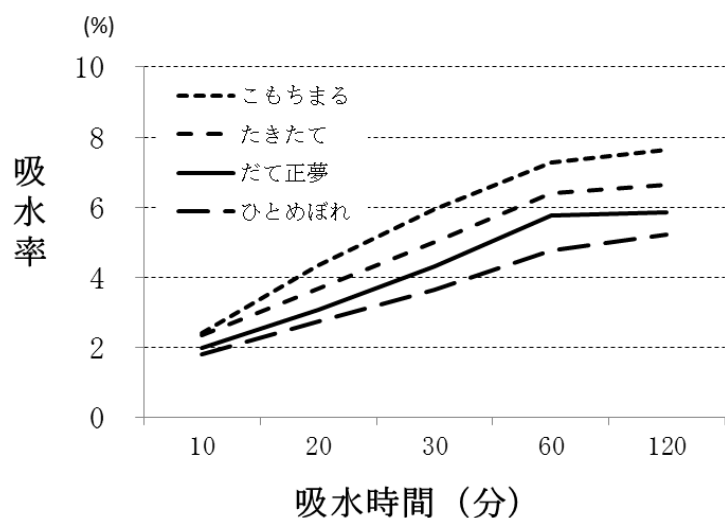
白米の吸水特性を酒造用原料米全国統一分析法(1996, 酒米研究会)により評価した。「だて正夢」の吸水速度と最大吸水量は、「こもちまる」や「たきたて」より遅く、低いが、「ひとめぼれ」よりは早く、高かった(第3図)。

1.4. 炊飯時の吸水時間と加水量

炊飯時の吸水時間や適正な加水量について検討した結果を第32, 33表に示す。吸水時間は、0時間では、「ひとめぼれ」、「だて正夢」ともに、米飯が硬く総合値も劣った。食味の総合値が基準を下回ってい

たのは、「ひとめぼれ」では30分までであったのに対して、「だて正夢」は10分までであった。「ひとめぼれ」は吸水時間が短いと味が基準を下回る傾向があった(第32表)。加水量は、ガス炊飯器を使用して検討した。「ひとめぼれ」は、2回の試験で1.50~1.52に食味総合値のピークがあったのに対して、「だて正夢」は3回の試験で、1.25から1.40倍の加水量で食味総合評価のピークが認められた(第33表, 第4図)。

以上の結果から、「だて正夢」は、「ひとめぼれ」と比べて、吸水時間が短くても食味の低下が少なく、適正な加水量は、1~2割程度少ないと考えられた。



第3図 吸水時間と吸水率

注)吸水速度は、20分間浸漬後の吸水率、最大吸水量は、120分間浸漬後の吸水率とする。

第32表 吸水時間の違いによる食味

品 種 名	吸水時間	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ	基準品種(吸水時間, 加水量) 試食年月日, 試食人数
だて正夢	0	-0.75	-0.19	0.00	-0.38	-0.06	0.69	だて正夢(60分, 1.35) 2016.8.12, 8名
	10	-0.19	0.06	0.00	-0.13	0.13	0.31	
	20	0.00	-0.38	0.06	0.00	0.19	0.00	
	30	0.25	0.13	0.06	0.06	0.38	0.25	
	40	0.19	-0.06	0.00	0.25	0.25	0.13	
ひとめぼれ	0	-0.67	-0.06	-0.06	-0.28	-0.50	1.06	ひとめぼれ(60分, 1.50) 2016.8.10, 9名
	10	-0.17	0.11	0.00	-0.33	-0.06	0.11	
	20	-0.06	0.06	0.06	-0.06	0.06	-0.17	
	30	-0.11	0.17	0.06	-0.22	0.06	0.06	
	40	0.22	0.06	0.00	-0.11	0.44	-0.22	

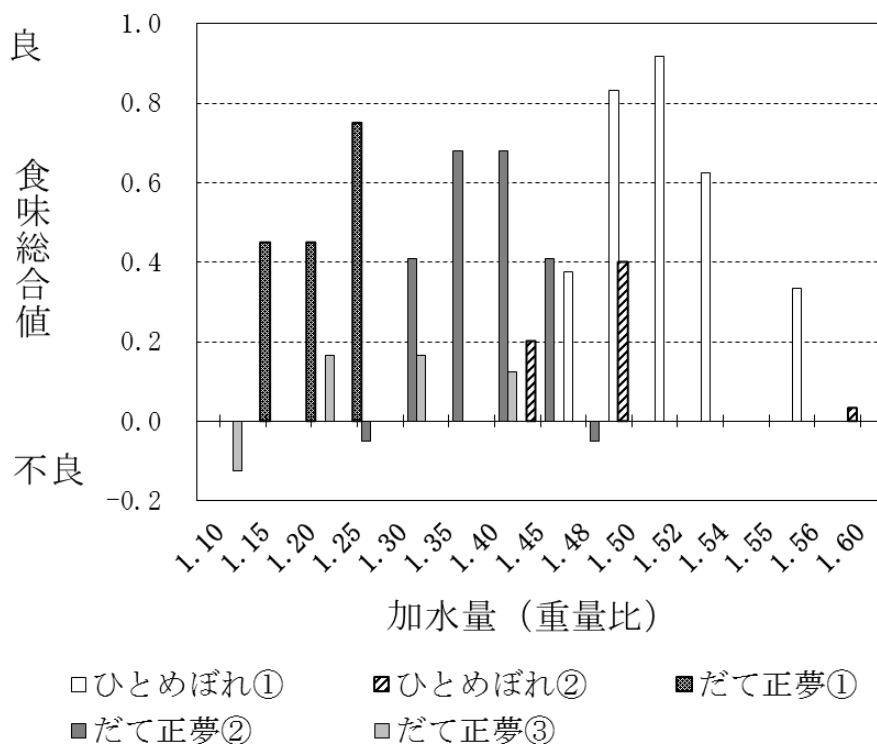
注) 加水量は, 「ひとめぼれ」が1.50倍, 「だて正夢」が1.35倍. 炊飯器はガス釜.

第33表 加水量の違いによる食味総合値

品 種 名	加水量	総合	白米水分	産米	試験名	試食者	
ひとめぼれ	(基準試料)	1.52	0.00	13.0	2015年産	だて正夢①	2015.11.9
だて正夢		1.25	0.75	12.6			10名
だて正夢		1.20	0.45	12.6			
だて正夢		1.15	0.45	12.6			
だて正夢		1.10	0.00	12.6			
だて正夢	(基準試料)	1.20	0.00	13.6	2015年産	だて正夢②	2016.6.27
だて正夢		1.25	-0.05	13.6			11名
だて正夢		1.30	0.41	13.6			
だて正夢		1.35	0.68	13.6			
だて正夢		1.40	0.68	13.6			
だて正夢		1.45	0.41	13.6			
だて正夢		1.50	-0.05	13.6			
ひとめぼれ	(基準試料)	1.50	0.00	13.9	2016年産	だて正夢③	2016.11.24
だて正夢		1.10	-0.13	13.4			11名
だて正夢		1.20	0.17	13.4			
だて正夢		1.30	0.17	13.4			
だて正夢		1.40	0.13	13.4			
げんきまる	(基準試料)	1.48	0.00	13.2	2015年産	ひとめぼれ①	2015.10.23
ひとめぼれ		1.48	0.38	13.1			12名
ひとめぼれ		1.50	0.83	13.1			
ひとめぼれ		1.52	0.92	13.1			
ひとめぼれ		1.54	0.63	13.1			
ひとめぼれ		1.56	0.33	13.1			
ひとめぼれ	(基準試料)	1.40	0.00	13.2	2016年産	ひとめぼれ②	2016.11.2
ひとめぼれ		1.45	0.20	13.2			15名
ひとめぼれ		1.50	0.40	13.2			
ひとめぼれ		1.55	0.00	13.2			
ひとめぼれ		1.60	0.03	13.2			

注) 加水量は, 白米に対する重量比. 吸水時間は同じ.

ガス炊飯器Rinnai RR055GSCにより炊飯した.



第4図 加水量の違いによる食味総合値
品種の後の丸数字は、異なる回の試験であることを示す。

1.5. 白米成分

白米のタンパク含有率とアミロースの分析結果を第34表と第35表に示す。タンパク含有率は、標肥では「ひとめぼれ」と同程度、多肥では「ひとめぼれ」よりやや低い傾向があった。アミロースは、「たきたて」より高く、「ひとめぼれ」より低く平均で

約10%となった。出穂後30日間の登熟期間の平均気温と白米アミロース含有率の関係を第5図に示す。3品種ともに登熟期間の平均気温が高くなれば、アミロース含有率は低下する傾向が見られたが、3品種のアミロース含有率の高低の関係は変わらなかった。

第34表 タンパク含有率

品 種 名	試験区	2010	2011	2012	2013	2014	2015	平均
だて正夢		5.4	6.7	5.7	6.5	6.1	5.4	6.0
ひとめぼれ	標肥	5.8	6.8	5.7	6.1	6.0	5.0	5.9
たきたて		5.3	6.4	5.8	6.1	5.7	5.5	5.8
だて正夢		—	—	6.1	6.7	6.3	6.1	6.3
ひとめぼれ	多肥	—	6.6	6.4	6.6	6.6	6.5	6.5
たきたて		—	—	6.0	6.4	5.9	6.2	6.1

注1) タンパク質含有率は、精米(90%搗精)を近赤外分光分析計(NIR6500)により測定。

注2) 施肥量(N, P, K成分kg/a)は、標肥(基:0.4, 0.6, 0.5), 多肥(基:0.4, 0.6, 0.5 追:0.3, 0.0, 0.3)。追肥は、最高分けつ期～減数分裂期にかけて3回に分けて施用。

注3) 標肥は2010～2015年の6年平均, 多肥は2012～2015年の4年平均。

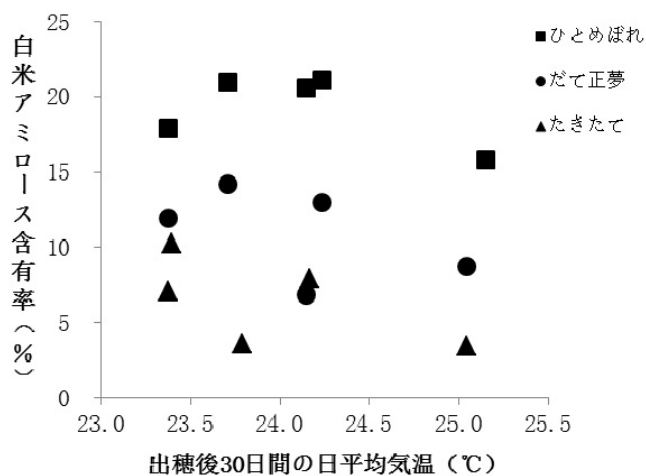
第35表 アミロース含有率

品種名	試験区	2010	2011	2012	2013	2014	2015	平均1	平均2
だて正夢	標肥	7.9	13.0	8.7	6.9	11.9	14.2	10.4	10.1
ひとめぼれ		—	22.9	14.6	20.6	17.9	—	—	19.0
たきたて		1.7	7.9	3.4	3.6	7.1	10.3	5.7	5.5
だて正夢	多肥	—	—	7.3	—	16.6	14.2	12.7	—
ひとめぼれ		—	21.0	17.3	—	—	—	—	—
たきたて		—	—	2.8	—	10.7	10.3	7.9	—

注1)アミロース含有率は、白米粉(90%精米)をオートアナライザー-II型により分析。

注2)施肥量(N, P, K成分kg/a)は、標肥(基:0.4, 0.6, 0.5), 多肥(基:0.4, 0.6, 0.5 追:0.3, 0.0, 0.3).
追肥は、最高分けつ期～減数分裂期にかけて3回に分けて施用。

注3)平均1は標肥は、2010～2015年の6年平均, 多肥は2012, 2014, 2015年の3年平均.
平均2は2011～2014年の4年平均。



第5図 登熟期間の気温とアミロース含有率

配付先における成績

奨励品種決定調査試験の成績を第36表に示す。岩手県、山形県、福島県、鳥取県、山口県では、出穂期、成熟期ともに、「ひとめぼれ」との差は2日以内であったが、これに対して、宮城県の移植・直播、千葉県、岐阜県の試験では、「ひとめぼれ」との出穂期の差が1～3日に対して、成熟期では4～8日遅くなる傾向が認められた。

いずれの地点においても、「ひとめぼれ」や「コシヒカリ」に比べて、穂数が少なく千粒重が軽く、玄米収量が少ない傾向が見られた。宮城県の直播、栃木県の普通植、山口県の試験では、対照品種の「ひとめぼれ」や「コシヒカリ」に比べて、倒伏程度が小さかった。配付先の出穂期と成熟期から判断して、栽培適地は東北中部以南である。

第36表 奨励品種決定調査における試験成績

県名	試験地名	年次	品種名	移植様式・施肥区	出 成		穂長 (cm)	穂長 (cm)	m ² 当 穂数 (本)	全重 (kg/a)	玄米 収量 (kg/a)	比較 比率 (%)	玄米 千粒重 (g)	玄米 品質 (1-9)	倒伏 程度 (0-5)	葉 いもち	穂 いもち
					穂 期 (月日)	熟 期 (月日)											
岩手		2012	だて正夢	移植・標肥	8/7	9/15	79.2	21.4	343	152.9	68.6	94	21.2	4.0	0.0	0.0	0.0
		2012	ひとめぼれ	移植・標肥	8/5	9/13	74.9	20.3	458	148.1	72.8	100	23.3	3.0	1.0	0.0	0.0
山形	本場	2012	だて正夢	移植・標肥	8/6	9/12	84.6	19.8	413	160.0	57.0	87	19.2	4.0	0.0	0.0	0.0
		2012	ひとめぼれ	移植・標肥	8/5	9/11	85.7	19.6	546	167.6	65.6	100	21.6	4.0	1.0	0.0	0.0
	水田農試	2012	だて正夢	移植・標肥	8/6	9/13	83.0	19.0	509	169.0	60.5	94	20.1	4.0	0.0	1.0	0.0
		2012	ひとめぼれ	移植・標肥	8/5	9/12	80.6	18.5	564	163.0	64.2	100	22.6	4.0	0.6	1.0	1.0
宮城	古川農試	2012-2015平均	だて正夢	移植・標肥	8/5	9/20	83.4	18.6	429	157.6	58.6	98	20.2	3.3	0.0	0.0	0.0
		2012-2015平均	ひとめぼれ	移植・標肥	8/3	9/15	81.9	18.0	537	151.9	60.1	100	22.4	4.0	0.3	1.0	0.1
		2013-2015平均	だて正夢	移植・多肥	8/5	9/22	90.9	18.7	451	163.8	56.4	104	19.7	4.0	0.1	0.0	0.0
		2013-2015平均	ひとめぼれ	移植・多肥	8/3	9/17	88.3	18.1	579	157.8	54.0	100	21.3	4.1	1.6	1.3	0.0
		2015	だて正夢	湛水直播	8/10	10/9	89.5	19.7	383	164.4	57.9	119	21.5	4.0	2.3	0.0	0.0
福島	本場	2012-2013平均	だて正夢	移植・標肥	8/8	9/17	81.3	18.7	421	155.1	58.4	92	19.5	2.5	0.3	0.0	0.0
		2012-2013平均	ひとめぼれ	移植・標肥	8/7	9/16	83.6	18.2	538	167.8	63.7	100	21.4	4.8	2.3	0.0	0.0
栃木		2013	だて正夢	早植・標肥	7/22	8/30	85.5	20.8	306	159.1	62.4	88	20.6	4.0	0.0	0.0	0.0
		2013	コシヒカリ	早植・標肥	7/29	9/2	96.5	19.5	367	180.1	71.0	100	21.9	3.0	1.0	0.0	0.0
		2013	だて正夢	普通植・標肥	8/20	9/29	95.7	19.7	322	168.4	55.1	100	20.5	4.0	0.0	0.5	0.0
千葉		2013	コシヒカリ	普通植・標肥	8/21	9/28	101.7	18.3	334	170.2	55.3	100	22.0	3.0	3.8	2.0	0.0
		2013	だて正夢	移植・標肥	7/22	8/28	84.8	20.7	343	157.5	65.4	97	20.1	4.0	1.0	0.0	0.0
岐阜	中山間	2013	ひとめぼれ	移植・標肥	7/19	8/22	78.5	20.4	414	153.8	67.2	100	22.4	4.0	2.0	0.0	0.5
		2015	だて正夢	移植・標肥	7/30	9/12	83.5	19.1	470	180.0	76.2	103	20.6	3.5	0.0	0.0	0.0
鳥取		2015	だて正夢	移植・標肥	7/31	9/8	79.5	19.1	524	158.4	73.8	100	23.2	4.0	1.0	0.0	0.0
		2015	ひとめぼれ	移植・標肥	7/25	8/30	78.9	17.0	449	138.3	51.2	87	19.5	4.0	0.0	0.0	0.0
山口		2015	だて正夢	移植・標肥	7/24	9/1	76.1	16.6	561	143.1	59.1	100	22.4	3.5	0.9	0.0	0.0
		2015	ひとめぼれ	移植・標肥	7/28	9/4	76.8	20.0	291	131.8	47.3	87	19.9	4.0	0.0	0.4	0.2
		2015	だて正夢	移植・標肥	7/29	9/6	78.5	18.9	402	135.0	54.1	100	22.1	4.4	3.0	0.3	0.2

注)玄米品質は1(良)~9(不良),倒伏程度,葉いもちと穂いもちは,0(無)~5(甚)を表す.

第37表 育成従事者

氏名	年次世代 交配	年次											所属 (2018年1月現在)		
		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015				
遠藤 貴司				(4)											現在員
永野 邦明														(3)	古川農業試験場場長
佐々木 都彦					(3)										東部地方振興事務所登米地域事務所
千葉 文弥				(3)											農産園芸環境課
我妻 謙介						(3)									農業大学校
早坂 浩志					(4)					(3)					仙台地方振興事務所
佐伯 研一						(4)									食産業振興課
佐藤 浩子								(4)-(3)		(4)				(8)	現在員
酒井 球絵						(4)					(3)				東部地方振興事務所登米地域事務所
中込 佑介										(4)					現在員

栽培上の注意

1. いもち病真性抵抗性遺伝子 *Pib* を保有しているため、葉いもち及び穂いもちほ場抵抗性が不明であるが、親和性レースが優占した場合は罹病化する可能性があるため、発病を見たら適宜防除に努める。
2. 白葉枯病抵抗性は“弱”であるため、常発地では栽培を避ける。

命名の由来

「みやぎ米の夢をかなえた真のおいしさ」とともに、名将「伊達政宗公」を連想させるシンボル性、話題性をかねそなえている。また、宮城県が目標とする東日本大震災からの創造的復興を正夢にする、という思いを込めて命名したものの。

育成従事者

本品種の育成に直接従事した職員は、第37表の通りである。

摘要

宮城県古川農業試験場において、「東北189号」(のちの「げんきまる」)と「東1126」の交配後代より育成した「東北210号」は、2017年1月に「だて正夢」の品種名で種苗法による品種登録の出願をおこなった。特性の概要は次のとおりである。

1. 出穂期、成熟期はともに、「ひとめぼれ」と同程度であり、宮城県では、中生である。
2. 稈長は「ひとめぼれ」とほぼ同じだが、穂長はやや長く、穂数は少なく、草型は中間型である。
3. 耐倒伏性は“やや強”で「ひとめぼれ」に優る。
4. いもち病真性抵抗性遺伝子型は *Pib* と推定され、葉いもちほ場抵抗性及び穂いもちほ場抵抗性は“不明”である。白葉枯病抵抗性は“弱”である。
5. 耐冷性は、「ひとめぼれ」と同じ“強”である。穂発芽性は“やや難”である。
6. 玄米収量は「ひとめぼれ」並から劣り、玄米千粒重は約20gと「ひとめぼれ」より軽く、玄米の形は、幅が狭い。
7. 玄米の外観は、白濁の程度が小さく、玄米品質は光沢が良く、乳白等の白未熟粒の発生が少ないため、「ひとめぼれ」に優る。

8. 食味は粘りが強く良好で、冷めても食味の低下が少ない。
9. アミロース含有率は、「ひとめぼれ」より低く、約10%である。
10. 「ひとめぼれ」と比べて、白米の吸水率が高く、吸水速度が速い。
11. 吸水時間が短くても食味の低下が少なく、適正な加水量は「ひとめぼれ」と比べて1~2割程度少ない。

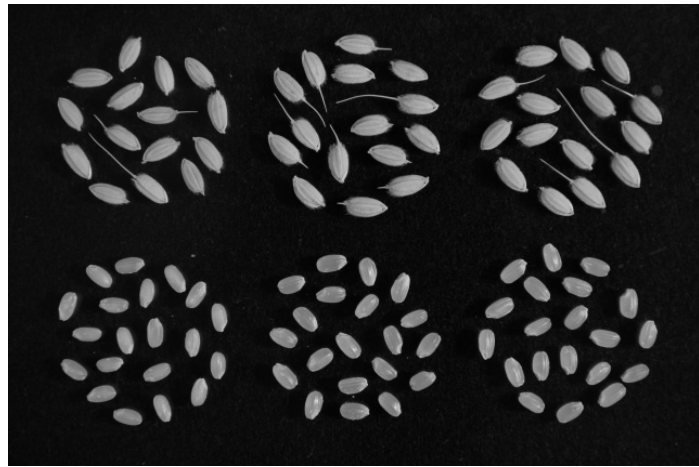
引用文献

- 1) 安東郁男, 荒木均, 清水博之, 黒木慎, 三浦清之, 永野邦明, 今野一男. 2006. 極良食味の低アミロース米水稻品種「おぼろづき」. 北海道農業研究センター研究報告 186 ; 31-46.
- 2) Ando, I., Sato, H., Aoki, N., Suzuki, Y., Hirabayashi, H., Kuroki, M, Shimizu, H., Ando, T. and Takeuchi, Y. 2010. Genetic analysis of the low-amylose characteristics of rice cultivars Oborozuki and Hokkai-PL9., *Breeding Science* 60: 187-194.
- 3) 東正昭, 斉藤滋, 滝田正, 山口誠之, 春原嘉弘, 横上晴郁, 池田良一, 田村泰章, 小山田善三, 小綿寿志, 井上正勝, 松本定夫, 片岡知守. 1999. 低アミロース米良食味品種「スノーパール」の育成. 東北農試研報 95: 1-12.
- 4) 永野邦明, 松永和久, 滝沢浩幸, 早坂浩志, 薄木茂樹, 黒田倫子, 千葉文弥, 宮野法近, 佐々木都彦. 2005. 水稻新品種「たきたて」について. 宮城県古川農試研報 5: 15-30.
- 5) 永野邦明, 早坂浩志, 千葉文弥, 宮野法近, 佐々木都彦, 遠藤貴司, 我妻謙介. 2008. 水稻新品種「ゆきむすび」について. 宮城県古川農試研報 7: 19-38.
- 6) 酒米研究会. 1996. 酒造用原料米全国統一分析法. <http://www.sakamai.jp/pdf/bunseki.pdf> (2018年1月4日閲覧確認)



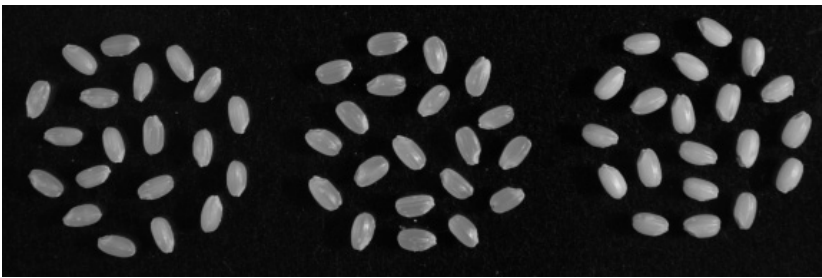
第1付図 株標本

(左から、だて正夢、ひとめぼれ、げんきまる)



第2付図 籾及び玄米

(左から、だて正夢、ひとめぼれ、げんきまる)



第3付図 玄米

(左から、だて正夢、ひとめぼれ、たきたて)

(第1～3付図 撮影日 2015年12月21日)



第4付図 草姿

(左:げんきまる, 右:だて正夢, 育成地 2015年9月11日)

第1付表 稲種苗特性分類一覧(2015年1月稲種審査基準に拠る)

形質 番号	形質	だて正夢		げんきまる		ひとめぼれ	
		階級	区分	階級	区分	階級	区分
1	しょう葉のANの着色の強弱	1	無又は極弱	1	無又は極弱	1	無又は極弱
2	基部葉の葉しょうの色	1	緑	1	緑	1	緑
3	葉の緑色の濃淡	6	やや濃	5	中	5	中
4	葉のAN着色の有無	1	無	1	無	1	無
6	葉しょうのANの着色の有無	1	無	1	無	1	無
8	葉身表面の毛じの粗密	5	中	5	中	5	中
9	葉耳のANの着色の有無	1	無	1	無	1	無
10	葉の襟のAN着色の有無	1	無	1	無	1	無
11	葉舌の形	2	鋭形	2	鋭形	2	鋭形
12	葉舌の色	1	無色	1	無色	1	無色
13	葉身の長さ	5	中	5	中	5	中
14	葉身の幅	5	中	5	中	5	中
15	初期の止め葉の姿勢(開花期)	2	半立～立	2	半立～立	3	半立
16	後期の止め葉の姿勢(完熟期)	2	半立～立	2	半立～立	1	半立
17	稈の向き	2	半立～立	3	半立	3	半立
19	出穂期	5	中	6	やや晩	5	中
20	雄性不稔性	1	無	1	無	1	無
21	初期の外穎のキールのAN着色 の強弱	1	無又は極弱	1	無又は極弱	1	無又は極弱
22	初期の外穎頂部下のAN着色の 強弱	1	無又は極弱	1	無又は極弱	1	無又は極弱
23	初期の外穎頂部のAN着色の強 弱	1	無又は極弱	1	無又は極弱	1	無又は極弱
24	柱頭の色	1	白	1	白	1	白
25	稈の太さ	6	やや太	6	やや太	4	やや細
26	稈の長さ	6	やや長	6	やや長	6	やや長
27	稈の節のAN着色の有無	1	無	1	無	1	無
29	稈の節間のAN着色の有無	1	無	1	無	1	無
30	穂の主軸の長さ	6	やや長	6	やや長	5	中
31	穂数	5	中	5	中	6	やや多
32	芒の有無	9	有	9	有	9	有
33	初期の芒の色	1	黄白	1	黄白	1	黄白
34	芒の分布	5	全体	5	全体	4	上3/4のみ
35	最長芒の長さ	5	中	5	中	3	短
36	外穎の毛じの粗密	5	中	5	中	5	中
37	外穎先端の色	1	白	1	白	1	白
38	後期の芒の色	1	黄白	1	黄白	1	黄白

AN:アントシアニン

第1付表続き

形質 番号	形質	だて正夢		げんきまる		ひとめぼれ	
		階級	区分	階級	区分	階級	区分
39	穂の主軸の湾曲度	3	垂れる	3	垂れる	3	垂れる
40	穂の二次枝梗の有無	9	有	9	有	9	有
41	穂の二次枝梗の型	2	2型	2	2型	2	2型
42	穂型	2	紡錘形	2	紡錘形	2	紡錘形
43	穂の抽出度	9	穂軸もよく抽出	9	穂軸もよく抽出	9	穂軸もよく抽出
44	成熟期	5	中	6	やや晩	5	中
45	葉の枯れ上がり時期	5	中	5	中	5	中
46	穎の色	1	黄白	1	黄白	1	黄白
47	穎の模様	1	無	1	無	1	無
48	後期の外穎のキールのAN着色の強弱	1	無又は極弱	1	無又は極弱	1	無又は極弱
49	後期の外穎頂部下のAN着色の強弱	1	無又は極弱	1	無又は極弱	1	無又は極弱
50	後期の外穎頂部のAN着色の強弱	1	無又は極弱	1	無又は極弱	1	無又は極弱
51	護穎の長さ	5	中	5	中	5	中
52	護穎の色	1	黄白	1	黄白	1	黄白
53	籾の千粒重	4	やや小	6	やや大	5	中
54	籾の長さ	5	中	5	中	5	中
55	籾の幅	4	やや狭	5	中	5	中
56	穎のフェノール反応の有無	1	無	1	無	1	無
58	玄米の千粒重	4	やや小	6	やや大	5	中
59	玄米の長さ	5	中	5	中	5	中
60	玄米の幅	4	やや狭	5	中	5	中
61	玄米の形	2	長円形	2	長円形	2	長円形
62	玄米の色	2	淡褐	2	淡褐	2	淡褐
63	胚乳の型	2	半糯	3	粳	3	粳
64	胚乳のアミロース含量	4	4型	5	5型	5	5型
65	胚乳の色	2	白色半透明	2	白色半透明	2	白色半透明
66	精米のアルカリ崩壊性	3	低崩壊	3	低崩壊	3	低崩壊
67	玄米の香り	1	無又は極弱	1	無又は極弱	1	無又は極弱
69	障害型耐冷性	7	強	6	やや強	7	強
70	穂発芽性	6	やや難	7	難	7	難
71	耐倒伏性	6	やや強	7	強	4	やや弱
72	脱粒性	7	難	7	難	7	難
73	いもち病抵抗性推定遺伝子型		<i>Pib</i>		<i>Pib</i>		<i>Pii</i>
74	葉いもちほ場抵抗性	-	-	-	-	4	やや弱
75	穂いもちほ場抵抗性	-	-	-	-	5	中
77	白葉枯病ほ場抵抗性	4	やや弱	4	やや弱	4	やや弱
78	しま葉枯病抵抗性品種群別	1	日本水稲型(+)	1	日本水稲型(+)	1	日本水稲型(+)

AN: アントシアニン

New Rice Cultivar “Datemasayume”

Takashi ENDO, Kuniaki NAGANO, Kunihiko SASAKI, Bunya CHIBA, Kensuke WAGATSUMA,
Hiroshi HAYASAKA, Kenichi SAEKI, Hiroko SATO, Marie SAKAI, Yusuke NAKAGOMI

SUMMARY

“Datemasayume” is a new non-glutinous rice cultivar with excellent eating quality, developed at the Furukawa Agricultural Experiment Station in 2015. It was selected from the progenies of a cross between “Tohoku 189” (later known as “Genkimaru”) and “Tou 1126” which has its *Wx1-1* gene derived from “Oborozuki”, parent cultivar with excellent eating quality cultivated in Hokkaido. “Datemasayume” is classified as a medium maturing plant in Miyagi and southern areas of the Tohoku region. Culm length is comparable to that of Hitomebore, but panicle length is slightly longer. Panicle number is lower as well. The plant type is classified as an intermediate type. It has high cool temperature tolerance at the reproductive stage. It is estimated to hold the true blast resistance genotype *Pib*, but its field resistance to leaf and panicle blasts is unknown, because it did not become infected under natural conditions. Compared to “Hitomebore”, the yield is either the same or less. The size of unmilled rice grains is also smaller, with 1,000 unmilled rice grains weighing approximately 20 grams. It also has slightly strong lodging resistance and sprouting resistances. Color of awns is white. Amylose makes up approximately 10% of its milled rice. Steamed rice has excellent eating quality, having slightly strong stickiness, that lasts over 4 hours. Areas suitable for cultivation include the southern Tohoku region and areas south of Tohoku.